



南越前町

# 議会だより

2018.8  
24号

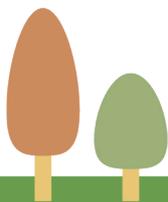


今年最初に開花した小三色

はす池のパワースポット

## Contents

- ② ▶ ③ 議長、副議長就任挨拶・議員紹介  
臨時会報告・議会構成
- ④ 6月定例会
- ⑤ ▶ ⑩ 一般質問
- ⑪ 主な議会活動報告
- ⑫ あなたの出番です・編集後記



議長 井上利治

上別所 70歳



毎日厳しい暑さが続いておりますが、町民の皆様におかれましては、益々ご健勝にてお過ごしのことと存じます。  
平素は、町政並びに町議会に対しまして多大なるご理解・ご支援を賜りまして厚くお礼申し上げます。

この度、改選後の初議会において、議長に就任することになりました。身に余る光栄とその責務の重さを痛感しているところでございます。議長として全力で公正かつ円滑な議会運営に努めてまいりる所存でありますので、どうかよろしくお願い申し上げます。  
さて、南越前町におきましても、少子高齢化、人口減少対策、災害対策など重要政策課題が山積しております。議会としては、町民が安全で安心して生活できる活力ある町の実現に向け、誠心誠意努めてまいりる所存であります。  
今後とも、町民の皆様のご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。就任のご挨拶とさせていただきます。

副議長 平谷弘子

長沢 72歳



この度、議員各位のご推挙により副議長に就任させていただきましたことになりました。誠に光栄で身の引き締まる思いであります。

議会運営にあたりまして、議長を補佐しながら、誰もが住みたくなる町を目指し、全力を傾注して職責を全うしてまいりたいと思っておりますので、どうかよろしくお願い申し上げます。  
今後とも、議員並びに町民の皆様の温かいご支援とご指導をお願い申し上げます。副議長就任のご挨拶とさせていただきます。

臨時会報告

5月8日の議員改選後の臨時会で、議長・副議長を選出し、議会構成・組合議会議員を決定した。

また、専決処分承認（平成30年度一般会計補正予算（第1号））及び公の施設の指定管理者の指定についてなど3議案を上げ、本会議にて審議し、原案のとおり可決した。

平成30年 南越前町議会構成

常任委員会

総務文教常任委員会

- ◎加藤 伊平 ○大浦 和博
- 高橋 宏介 山本 徹郎
- 井上 利治 秋田 重敏
- 丸岡 武司

産建厚生常任委員会

- ◎平泉 初男 ○熊谷 良彦
- 城野 庄一 喜村 喜代治
- 生駒 一義 平谷 弘子
- 山本 優

議会運営委員会

- ◎丸岡 武司 ○秋田 重敏
- 平泉 初男 加藤 伊平
- 生駒 一義 山本 優

議員紹介



**城野 庄一**  
湯尾 64歳



**大浦 和博**  
糠 64歳



**山本 徹郎**  
東谷 50歳



**高橋 宏介**  
東谷 41歳



**加藤 伊平**  
西大道 71歳



**平泉 初男**  
今庄 69歳



**喜村 喜代治**  
久喜 68歳



**熊谷 良彦**  
上野 66歳



**丸岡 武司**  
脇本 76歳



**山本 優**  
鋳物師 74歳



**生駒 一義**  
甲楽城 75歳



**秋田 重敏**  
合波 75歳

後期高齢者医療広域連合議会 井上 利治	加藤 伊平 平谷 弘子	福井県丹南 広域組合議会	高橋 宏介 平泉 初男 井上 重利	南越消防 組合議会	監査委員 生駒 一義 ◎委員長 ○副委員長	喜村 喜代治 城野 庄一 加藤 伊平	議会広報特別委員会	◎秋田 重敏 ◎山本 徹郎 ◎他全議員	新幹線・在来線対策特別委員会	◎生駒 一義 ◎大浦 和博 ◎他全議員	原子力安全対策特別委員会	特別委員会
	山本 徹郎 平谷 弘子	公立丹南病院 組合議会	熊谷 良彦 喜村 喜代治 井上 重利	南越清掃 組合議会		◎高橋 宏介 ◎平泉 初男 ◎丸岡 武司	◎山本 徹郎 ◎他全議員	◎大浦 和博 ◎他全議員				

## 6月定例会

6月18日から22日までの5日間の会期で開催し、一般会計補正予算、南越前町鉢伏山周辺施設維持基金条例の制定についてなど4議案を上程しました。

18日の本会議では、4議案及び陳情1件を各委員会に付託しました。同日、原子力安全対策特別委員会を開催し、「エネルギー基本計画に原子力発電所の新增設・リプレースを求める意見書の提出に関する陳情」について審議しました。19日には総務文教常任委員会、20日には産建厚生常任委員会をそれぞれ開催し、議案を審議しました。

最終日の22日には採決が行われ4議案を原案のとおり可決しました。また、原子力安全対策特別委員会に付託した陳情1件の審査結果は、下記報告のとおりです。

一般質問は、初日の18日に行われ、町政について6人が町長の考えを質問しました。

### 常任委員会報告

#### ▼総務文教常任委員会

(6月19日開催)

当委員会に付託された一般会計補正予算及び南越前町税条例の一部改正についての2議案について、所管ごとに説明者の出席を求め、慎重に審査し、原案のとおり可決しました。

審査の過程で、特に議論した事項について報告します。

**指摘** 町有林が住宅の背後の急傾斜地にあり、倒木やサギによる被害が発生しているため、住民が安心して生活できるように対応等を検討されたい。

**回答** 本町有林は、雪崩防止保安林に指定されており、伐採が禁止されている。台風により民家に被害を及ぼすような樹木と判断した場合は、県に伐採届を出すとともに伐採を行います。

**指摘** 給食センターの高額な機器を更新や修繕する時には、現場職員の確認だけでなく、専門業者によるメンテナンスを実施することも

に今後は、購入ありきでなくメンテナンスを含めたリース契約も調査検討されたい。

**回答** 今後、専門業者による保守点検等を検討する。契約についてはメンテナンスを含めたリース契約についても検討する。

#### ▼産建厚生常任委員会

(6月20日開催)

当委員会に付託された一般会計補正予算及び南越前町鉢伏山周辺施設維持基金条例の制定についてなど3議案について、所管ごとに説明者の出席を求めて、慎重に審査し、原案のとおり可決しました。

審査の過程で、特に議論した事項について報告します。

**指摘** 町内の案内看板を定期的に点検することも必要に応じて修繕



老朽化した看板

整備し、本町の歴史文化及び観光誘客を推進するよう努められたい。また、河野の「コンビ」を利用する住民を乗せる車輛を購入したいようだが、利用者のニーズに対応した運行形態、維持管理やコスト削減を図るよう努められたい。

**回答** 観光案内看板の現況調査を実施し、撤去を含め計画的に対処する。河野地区「コンビ」の買い物支援バスの運行に係る人件費、車検等の維持管理費は「コンビハーツ」の負担で調整している。運行形態は、利用者や運営者が協議し進める。

### 特別委員会報告

#### ▼原子力安全対策特別委員会

(6月18日開催)

当委員会に付託された陳情第2号「エネルギー基本計画に原子力発電所の新增設・リプレースを求める意見書の提出に関する陳情」について、慎重に審査した結果、休会中の継続審査にすることに決しました。

## 一般質問



加藤 伊平

### 一、町議選時の有権者インタビューについて

**問** 4月22日、ケーブルテレビで開票速報とあわせ、町民インタビューが放映されていた。町民の意見では子育て支援に対する好評価、高齢者対策、過疎・人口減少、働き先確保など多岐にわたり、議員も今後真剣に取り組んでいかなければならない。町の90億円の事業費のうち自主財源は約6割、残りは国や県の補助金を確保する必要があるが、議員では出来ない。町政の最高責任者である町長にもしっかりと受け止めてもらわなければならない。感想と今後の取り組みを伺う。

**答** 町長 インタビューでは人口減少問題について触れられた方が

全体の約4割いたことが第一印象で、町としては、これまで定住化対策として宅地分譲や新築住宅への補助を行い、一定の成果をみているが、少子高齢化と併せて町民自身も危機意識を持っていると感じた。今後も定住化策を強く推し進めるとともに観光振興や雇用の場創出など地域の活性化に繋がる施策についても積極的に取り組む必要があると感じている。



相対して高齢者福祉に対しては不安を感じている方が多い。特に、高齢者の足の確保を望む声が多数あり、早速庁内で地域公共交通活性化検討委員会を立ち上げ、今後さらに加速する高齢化社会において、誰もが安心して安全に外出できる交通手段の確保に向け検討に入った。

### 二、平成29年度決算見込みに

**問** 福井市が大雪で経費がかかり30年度予算が財源不足となるため、事業を削減し、職員給与もカットするとの報道がある。市町村がしっかりと寄せが来る。そうならないために議員も視野を広め、チエック機能を果たしていかなければいけない。当町でも、昨年10月の台風21号被害で財政調整基金(24億円)を一部取り崩した。大雪の対応として当初予算の5千万円に加え1億2千万円を追加した。これら災害に対する国、県の支援と最終的な決算見込みについて伺う。

**答** 町長 台風21号による災害の復旧事業は、正式な決算は固まっていないが、被害総額は約8億円と算定している。国の支援は、道路・林道の災害復旧事業に約3千万円、財政融資資金貸し付け約2千万円、特別交付税7千万円の支援を受けている。道路や河川など県事業で約4億8千万円の経費

をかけ復旧を行い、園芸ハウス再整備補助金に約160万円の支援を受けた。

これら国・県の支援を差し引き町費として約1億5千万円の費用がかかっているが、基金を1億円取り崩すことで対応した。

豪雪の経費は約2億1千万円、国補助金が3千100万円、交付税が約1億円、残りは財政調整基金を7千万円取り崩し対応した。



平成29年度台風21号による倒木

今後も不測の事態に備えることも、なお一層の健全な財政運営に努める。



大浦 和博

「住みよいまちづくり」について

**問** 「河野地区暮らしの拠点施設」

コンビニエンスストア一体型施設が完成したが、交通弱者である高齢者等が、コンビニを利用しやすいように、コミュニティバスの運行形態の見直し等を含め、新たな移動手段を検討しているのか伺う。

**答** 町長

コンビニを起点に運行する車両を購入して、買い物支援バスとして各集落と店舗を、集落ごとに日時を設定し運行する計画である。具体的な運行は、地域



オープンした河野地区のコンビニ

住民や、関係団体で構成する施設運営協議会を設置し、運行形態を検討していく。

**問** 「コンビニ」の名称が長いので、愛称を募集してはどうか。また、「コンビニ」周辺に若者、恋人の聖地となるようなモニュメントを作ってはどうか、町の考えを伺う。

**答** 町長

愛称募集や、モニュメントの設置についても、この運営協議会で方向性を出していく。

**問** 町民の生活には自動車は欠かせない移動手段であり、ガソリンスタンドが近くにないのは大変不便である。ガソリンスタンドは自動車給油だけでなく給湯や暖房用の灯油も扱っており、生活になくはならないものである。ガソリンスタンドが廃業に追い込まれるまでに、何らかの対策を考えなければ、生活基盤が崩壊し、「給油所過疎化」になることが懸念される。町内のガソリンスタンド（特に個人経営）の現状を把握し、対策を講ずる必要があると思うが、町長の考えを伺う。

**答** 町長

ガソリンスタンドが経営を断念した場合は、自家用車や農

業・漁業で使用する機械への給油をはじめ移動手段を持たない高齢者への灯油の配達など、日常生活に支障をきたす恐れがある。さらに、防災上の観点からも解決すべき課題である。

「ガソリンスタンド過疎地」となる前に、商工会や地域住民と関係機関が議論を深めるとともに、先進事例などの調査研究に取り組む。

二. 産業への取組みについて

**問** 以前の一般質問で、「一年を通じて定置網漁業を操業できるようにする。」との答弁があった。現状と、対策を伺う。

**答** 町長

漁具修理保管施設の完成により、冬場の雇用が確保され、漁の期間も延びるとの趣旨発言である。

**問** 「町内の小学生を対象に定置網漁業体験を実施する。」との答弁もあったが、実績と今後の方針について伺う。

**答** 町長

平成25年度から27年度の3年間、6年生を対象に実施した。今後、漁協が主となって取り組

むのであれば支援を検討する。

**問** 近年、獣被害により、観光の目玉でもある越前水仙は壊滅状態にある。町は、越前水仙を再生させ、獣被害から守るための事業を計画しているようだが、事業内容の説明および水仙栽培の振興対策について伺う。

**答** 町長

獣害対策事業については、水仙圃場侵入防止柵を設置する。振興対策としては、園芸ハウスを設置し、水仙のハウス栽培や、平地栽培の普及を図るものである。

**問** このモデル事業の継続は厳しいと思われるので、重要文化的景観の選定を目指す県と町が連携して、事業計画を立てる必要があると思う。早急に県と協議してもらいたい。

**答** 町長

県は、文化振興課が中心であり、事務局には生産振興課や地域農業課も参画している。町も、教育委員会事務局と農林水産課等関係各課が連携をとり、県と協議しながら保存計画の検討・策定をしていく。



高橋 宏介

一、町内除雪について

**問** 除雪車の若手オペレーターの育成のための、資格取得支援を行うことはどうかと考えるが、本町の考えを伺いたい。

**答 町長** 除雪作業に従事している方々の高齢化については、他の産業と同じ傾向にあり、また、人員を確保することに対しても、委託業者も大変苦労していると聞く。

オペレーターの資格取得については、個人資格であることから、今のよう助成している市町はないが、今後の雪対策として、業界全体の課題でもあるので、県や近隣市町の動向を注視しながら対応したいと考えている。

**問** 除雪車の維持費、購入等に支援を行うのはどうか。町長の所見を伺う。

**答 町長** 維持等支援については、

業者との契約時に、平常時に使用する機種ごとの単価契約と併せて、固定費の契約をしている。固定費とは、機械保有に必要な経費、減価却費などを、一定時間算定し、作業実績の有無に関わらず支払う制度で、21年度から取り組んでいる。購入に関する町の助成はない。必要な機械台数は59台であり、その内19台は町の除雪車を貸与する事で対応している。今年度も2台購入する予定である。

引き続き町の保有台数の増強に努めていくとともに、他市町の動向を注視しながら、除雪車の確保について検討していきたい。

二、今後の三中学校について

**問** 南越前町小中学校再編検討委員会としての提言がまとまり、町へ提言書が提出されました。その概要について伺う。

**答 町長** 提言書は5つの章から構成されており、少子化に絡む各種データや資料をもとに、本町について望ましい学校規模や、学校配置に係る要件と基準を定め、適正

規模、配置に係る基本方針を掲げたうえで、3つの提言がされている。また最終章では、適正規模、配置化を進めるにあたって、特に配慮が必要な事項について述べられている。中学校に関しては、以下の提言がされている。



1つ目は、特に対応を急ぐべき学校として、現在又は将来的に全学年1クラスになる中学校は、他の中学校と統合する事が望ましい。更に地域の実情を十分に考慮する事

を前提に、中学校の新設も視野に入れながら検討する事が望ましい。2つ目は、今後も引き続き検討すべき学校として、全教科に専任教員が配置できない8学級以下の中学校については、保護者や地域住民等の十分な理解と協力を得ながら、統廃合について検討していく事が望ましい。ただし、実際に統廃合を進めていく際には、対象となる地域に配慮し、丁寧に説明していく事が必要であり、情報公開や再編後の通学手段等についても安全に留意した支援が必要と述べられている。

3つ目の小学校に対しての提言については、地域コミュニティの観点から、統廃合の検討については時期尚早としている。

教育委員会としては、学校再編に係る情報の公開を行うにつれ、提言書の内容をPTAや地域の方々に説明し、意見を頂き、町としての具体的な方向性を決定づけていきたいと考えている。



平谷 弘子

一、本町の住民利用バスについて

**問** 住民利用バスの現状と今後の高齢者等の生活移動の支援策について伺う。

**答 町長** 住民利用バスは、地域の地形、歴史的背景などを踏まえて、現在の交通体系としたが、運行本数、行き先について、利用者の中には不満な点があるようだ。高齢者等の移動手段を検討するため、役場内に地域公共交通活性化検討委員会を設置し、利便性が高く効率的な支援策を検討し、平成31年度の早い段階で実施していきたい。

二、本町内トイレのバリアフリー化について

**問** 南条駅トイレの洋式化について伺う。



**答 町長** 南条駅内のトイレは、商工会館の一部であり、洋式化されていない。改善に向けて協議し、整備の方向で検討していきたい。

**問** 新ゴミ焼却施設の建設までの経緯と概要について伺う。

**答 町長** 南越清掃組合の全てのゴミ処理施設が越前市に立地しており、将来的に安定して処理をするための新焼却施設の建設が必要な状況である。

候補地の上野集落では、特別委員会を立ち上げ、役員会や協議会に節目ごとに諮り意思決定をしていただき、平成28年8月に公害防止協定、建設同意書に調印となった。

- ・土砂災害・洪水リスクが少ない
- ・電力・工業用水の取得が容易である
- ・収集車が集落内を極力通過しない
- ・積雪期、冬季間の円滑なごみの搬入
- ・災害時の物資の確保が容易である
- ・極力、人口の多い越前市に近いこと

三、新ゴミ焼却施設について

**問** 新ゴミ焼却施設の建設までの経緯と概要について伺う。

**答 町長** 南越清掃組合の全てのゴミ処理施設が越前市に立地しており、将来的に安定して処理をす

る。稼働時間は連続24時間運転とし、搬入車両数は、1日100台程度を見込んでいます。

排ガスの煤塵や有害物質は最新技術で除去し、施設は十分な強度、耐震性のある構造とする。万が一のときは安全停止する仕組みである。

**問** 施設の運営開始後、分別方法と住民負担について伺う。

**答 建設整備課長** 従来どおりの分別が必要だが、燃やせるゴミの範囲が広がり、町民のゴミ分別に対する負担の軽減につながる。

**問** 施設で発生する余熱の再利用について伺う。

**答 町長** 周辺の園芸振興に活用できる体制ができれば、南越清掃組合と検討する考えである。

**問** 他市町からの受け入れと管理体制について伺う。

**答 建設整備課長** ゴミの受け入れは午前8時半から午後5時頃の予定。南条スマートインターチェンジが24時間化になっても職員が構成市町以外の搬入を監視し、時間外受付はない。また、立地や周辺地区と締結した公害防止協定には、放射

能汚染廃棄物は受け入れないことを明記している。

**問** 施設の安全性確保と住民への情報発信について伺う。

**答 建設整備課長** 当施設は、最新技術で安全性、環境性が高く、排ガスは、法規制値より厳しい自主規制値を定め、24時間監視のもと運転する。ばいじん、硫酸酸化物、窒素酸化物、塩化水素は、施設や

役場内のモニターで常時公開する。さらに、震度6強の地震や大雪にも耐える設計である。建設予定地周辺のゴミの搬入路は、幅2.5メートルの歩道を新設中で、操業開始までに全線の整備を行う。

情報発信は、南越清掃組合や町のホームページ及び町広報紙・チラシなどで行っていく。今後、工事着手となれば、さらにきめ細かな発信に努める。

**問** まだ調印していない区に対して、どのように話し合いを続けるのかを伺う。

**答 町長** 現在調停中であり、今後整理できれば、地元の要請に真摯に答えていきたい。



平泉 初男

一、ふくい嶺北連携中枢都市圏構想について

問 目的としては、中核性を備える圏域都市、中核市等が近隣の市町村と連携すること、人口減少、

少子・高齢化にあつても一定の圏域人口を有し、社会経済を維持するための拠点を形成する。これは、嶺北11の市町が連携して構成されることである。この構想は、現在ではまだビジョン策定の段階であり、取り組みは平成31年4月1日の連携協定の締結以降になるが、ふくい連携中枢都市圏構想の概略について伺う。

答 町長 嶺北全11市町の首長で構成するふくい嶺北都市圏連携推進協議会が設置され、ビジョンに関する最終方針を決定した。現在、ふくい嶺北連携中枢都市圏ビジョンの素案を懇談会に示して、意見・助言を受ける状況である。

一)の素案の概要は、圏域全体の持続的な発展を見据えて、7市4町の多様な資源、産業、人材の活用や、人口、定住のために必要な高次の都市構想、都市機能の集積に向けた環境性、また住民の生活関連機能サービスの維持向上を目指す有機的な連携等について方向性を示して、今後の具体的な取り組みを推進することとしている。

問 構成都市と連携した場合、どのような取り組みになるのか伺う。

答 町長 住民の生活環境が向上する取り組みの一例として、休日の急患歯科診療、また保育所等の広域の入所、病児の育児環境などの医療福祉の分野におけるサービスの供給体制が強化される。また、鳥獣害対策の調査、研究を広域連携で取り組むことで、有効な施策が講じられる。観光振興においては、戦略的な観光施策を推進するための広域観光周遊ルートの形成、外国人観光客の受け入れ環境の整備などについて、連携する市町とつて推進される。

本町独自の施策としては、南条の

サービスエリア周辺の地域振興施設の整備事業、定住化の促進事業、また子育て支援事業などについては、連携後においても一層磨き上げて取り組んでいきたい。

問 取り組みに対して、町長の見解を伺う。

答 町長 今後明らかになる構想の内容を精査・連携し取り組みことで、住民や地域にとって有益な施策、連携を図り、現在直面している課題で、確実に解決できる施策については、積極的に取り組んでいきたい。

今後このビジョン策定や具体的な施策の取り組みについては、近隣市町をはじめとした構成市町と協調し

推進していきたい。

連携中枢都市圏の名称及び構成市町

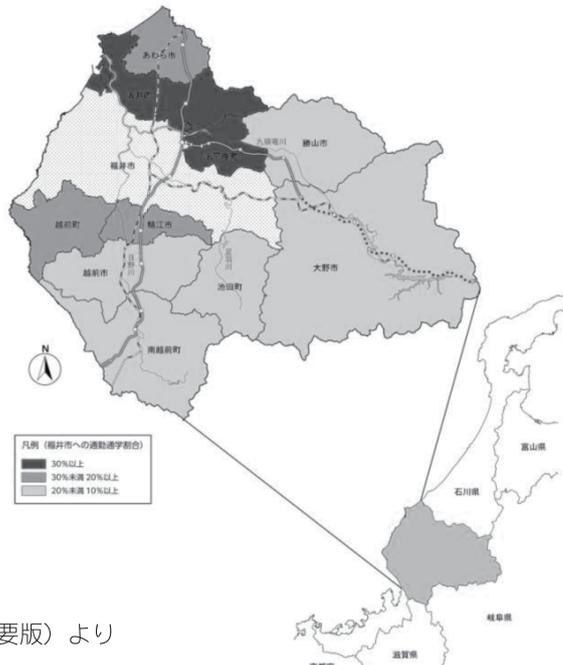
ふくい嶺北連携中枢都市圏

構成市町

福井市、大野市、勝山市、鯖江市、あわら市、越前市、坂井市、永平寺町、池田町、南越前町、越前町

取組期間

平成31年度(2019年度)から平成35年度(2023年度)の5年間



ふくい嶺北連携中枢都市圏ビジョン骨子案(概要版)より

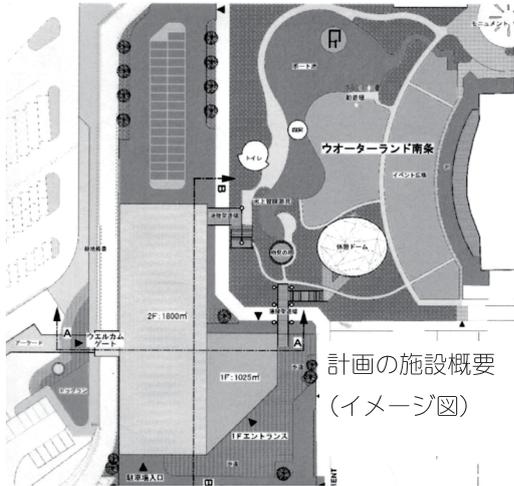


山本 優

一、南条SA地域振興施設の進捗について

**問** 昨年、国のモデル事業として選定された地域振興施設は、各種団体や地域の高い関心があり、その核となる物販施設の指定管理予定者「三谷商事㈱」の選定理由について伺う。

**答 町長** 昨年の9月に国交省、県、NEXCO中日本などと地元の商工、農林漁業、観光団体で協議会を設立し、10月に先進地の視察、本年3月に協議会で管理者選定の検討を行い5月に2社から提案を受け、事業方針・



計画の施設概要 (イメージ図)

公益・収益性など総合的に判断し決定した。今後は、計画段階から参画を求め、地元や地域団体との連携、地元雇用の推進、道の駅としての運営など関係者と一体となって取り組んでいく。

**問** その後の進捗状況と、意欲ある個人・団体に対する働きかけを伺う。

**答 建設整備課長** 6月1日に運営部会を開催し、施設の運営方法、出店者の募集方法等協議した。14日には、山海里PRエリアを運営する新組織設立についても意見があり、今後調整していきたい。

**問** これを機会に新たな人々を呼び込む方策として「地域おこし協力隊」の活用もある。意欲ある若者を協力隊として呼び込む方法を伺う。

**答 観光まちづくり課長** 協力隊は、自分の能力を活かした活動などを目的に応募されるも

のであり、都会目線の斬新なアイデアを必要とする場合に募集することは有意義であると考えている。

**問** 南条SA地域振興事業は、長期にわたる事業であるので、それに対する役場内の体制について伺う。

**答 町長** 町としての支援体制は、副町長を中心に関係各課の課長など16名で検討会議を開催し平成33年春の開業をめざす。

**意見** 成功のためには、広報活動が重要で、南条SAに看板の設置、施設の名称を公募など専門家も交え慎重に検討を進められることを期待している。

一、観光施設の点検整備について

**問** 町の歴史と文化を活用した観光資源の発掘や建設により、観光客が関心を持つ計画が必要と思うが、現状と今後の計画について伺う。

**答 町長** 平成27年に作成した「町総合計画」で定めた平成36年度の観光入込数77万人を目指している。



杉山第2登山道の「観光トイレ」外観

今後も各施設の成果目標を掲げて取り組んでいく。

**問** 既存の観光施設の点検で補修困難なもの、必要性の薄いものは撤去する必要があると考えますが、現状について伺う。

**答 町長** 各施設は、町公共施設管理公社や民間業者に管理を委託しているが、建設後20年以上を経過しているものが多く、各施設の修繕等は修繕計画を基に実施している。突発的なものや安全に関係するものは速やかに対処している。

**問** 観光誘客の確保には近隣市町との連携が必要である。各市町の特徴を活かした受け入れ体制について伺う。

**答 町長** 丹南地区への観光客の入込数を600万人から平成34年には700万人に増加させるため観光商品開発や滞在時間延長の目標を設定し事業展開を進める予定である。

## 主な議会活動報告

●5月19日 河野地区「コンビエンスストア」一体型施設オープン式が開催され、議長他13名が出席した。

●5月21日 新人議員研修を本庁で開催し、議会運営委員会正副委員長、他新人議員6名が出席した。

●5月22日 嶺北町村議会議長会総会が本庁で開催され、議長が出席し、会長に選出された。

●5月28日～29日 全国町村議会議長・副議長研修会が東京国際フォーラムで開催され、正副議長が出席した。また、全国都道府県会議長会が仙台市で開催され、議長が出席した。

●6月1日 シーズン30 夜叉ヶ池安全祈願祭が夜叉ヶ池登山口で開催され、議長、産建厚生常任委員長が出席した。

●6月28日～29日 北信越町村議会議長会 会長会議が福井県あわら市で開催され、議長が出席し、会長に選出された。

●6月30日 「第二十六回はすまつり」オープン式が花はす公園で開催され議長他13名が出席した。



●7月1日 自警消防隊連絡協議会消防操法大会が今庄中部地区農業集落排水処理施設前広場で開催され、議長、総務文教常任委員長、会正副委員長が出席した。

●7月2日 福井県町村議会議長



会広報研修会が自治会館で開催され、議長・議会広報特別委員会正副委員長他4名が出席した。

●7月12日 全国町村議会広報クリニック研修会が全国町村議会議館で開催され、議会広報特別委員長、会正副委員長が出席した。

●7月13日 河野海開き 神事式典が甲楽城海水浴場で開催され、副議長が出席した。



●7月18日～19日 中日本町村議会議長会、全国豪雪地帯町村議会議長会理事會、総会・都道府県会議長会が全国町村議会議館で開催され、議長が出席し、中日本町村議会議長会副会長に選出された。

### 5月～7月の主な会合

全員協議会

5月8日、6月18、22日、7月23日

議会運営委員会

5月17日、6月11日

広報特別委員会

6月6日、7月20日、30日

### 各組合議会の主な会合

●6月27日 平成30年第2回南越消防組合議会臨時会が越前市役所で開催され、議長他組合議会議員3名が出席した。

●7月3日 臨時福井県市町総合事務組合議会が自治会館で開催され、議長が出席した。

待ってました!!  
あなたの出番です!




大道自警消防隊Aチーム

近年の異常気象により、経験したことのない災害や不注意や放火による火災が多発しています。そんな中、自警消防隊の活動の大切さが重要視されています。

農業集落排水処理施設前広場で開催されました。ホースを延長して標的がけて放水し、標的が倒れるまでの時間と正確さを競技する小型ポンプ操法では、14チームが参加し、日頃の訓練の成果を競いました。その結果、指揮者加藤貴士さん、1番笛吹和正さん、2番加藤和弘さん、3番加藤聡一郎さんたちの「大道自警消防隊Aチーム」が優勝しました。

自警消防隊は集落ごと編成され、無報酬で地域住民の生命や財産を守るという責任感のもとその使命を果たしています。集落によっては、隊員の不足により、編成がとれないなど様々な課題がありますが、日々集落のために「生懸命」に活動しています。7月1日に自警消防隊連絡協議会消防操法大会が、今庄中部地区



### 隊長(加藤貴士さん)からのひと言

私たち自警消防隊は「自分たちの集落は自分たちで守る」の精神を持って日々訓練・活動しています。地域の皆さんから信頼される自警隊を目指して頑張ります。

今後、さらなる自警活動の拡大、課題解決のため、一人でも多くの方々に入隊いただきますようお願いいたします。

### 編集後記

今年4月に町議会議員選挙が実施されました。無投票当選が2期続き、12年ぶりの選挙戦となり町民の審判を受けた14名が当選しました。

5月8日開催の初議会において議長・副議長を選出し、新しい議会がスタートしました。

全議員が町民の皆様方のご意見・要望等を的確に捉え町の施策に反映できるよう努力いたします。

今回広報委員会の委員も新しく構成され見やすくわかりやすく、そして親しまれる広報誌を目指し委員一同努力いたしますので皆様方のご意見を是非お願いします。

7月の梅雨前線の停滞による豪雨災害は、西日本を中心に大雨特別警報が11府県に発せられ、大規模な土砂災害や河川堤防の決壊等、平成最悪の被害をもたらした。本町では大きな被害は無かったが、災害時の避難について今一度、家族の中で話し合い、確認しておくことも大事なことだ。(喜村)